

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
リスニング (86.7%)	・リスニングの平均正答率は、他の領域より高く、昨年度よりもさらに向上し、達成状況は良好である。特に、単語の聞き取り、対話を聞いて場面を想像する力、対話の中で適切な表現を選ぶ力は、十分満足できる状況である。昨年度十分な結果ではなかった対話の内容についての英語の質問に対する適切な答えを選ぶ問題の達成状況も、改善されてきた。	・引き続き、導入の場面で、口頭による進出文法事項の紹介や本文内容の紹介を英語で行っていく。その際、内容理解の確認を英問英答を多く取り入れて実施し、単語レベルでの答えだけでなく、できるだけ文で答えて文法上も適切に答えられるように指導していきたい。
読解問題 (81.2%)	・平均正答率は、昨年度70%台に上昇し、今年度はさらに80%台になり、年々改善されてきていく。昨年同様、対話の流れの中で、代名詞がどの名詞を受けているのかについては、比較的理解できており、昨年十分ではなかった登場人物についての情報を整理をする力も、少しずつついてきている。	・基本的な疑問詞 (who, what, where, when, whose, which, why, how) を導入する時期を教科書の進度よりも少し早めて、教科書本文内容を読み取る場合に、それらの疑問詞の内容を意識させて、登場人物などの情報を整理しながら概要を読み取らせる指導をしていきたい。
文法・表現・英作文 (69.3%)	・平均正答率は昨年度70%台に上昇したが、今年度は70%を下回ってしまった。表現の知識理解の力はついてきているが、場面の中で適切な英文を予想して書く力が十分ではない。英文を場面の中で理解しているのではなく、日本語の逐語訳として暗記している傾向があるので、場面に応じて利用できないのだと思われる。特に、疑問詞を用いた疑問文の語順が定着していない。	・昨年度、表現に関わる問題の平均正答率が低かった状況から、日本語とは異なる英語の語順「主語＋述語」の定着が十分ではないと分析し、今年度は、表現するときでなく内容理解のときも語順に注目させてきた。今後も語順の定着を目指すとともに、疑問詞の意味用法に習熟させて、be動詞と一般動詞の疑問文と否定文の作り方の使い分けにも慣れさせていきたい。さらに、場面に応じて適切な表現を選べるように、会話の流れの中で英作文指導を行っていきたい。
領域名 (平均正答率)		